

小さな試み

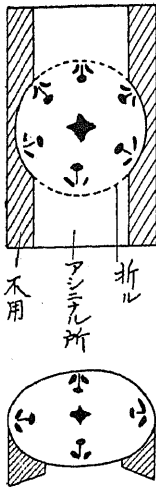
豊町區番町幼稚園 徳久智江子

國を擧げて聖戰の今日、物資も統制され、したがつて保育用品、手技材料等も、品不足をつけて参りましたのも亦必然の事と存じます。

然し、それかと言つて、日々の保育まで制限されて品不足を來す様の事あつては、銃後の國民として誠に申わけないと存じます。

そこで制限された品物で、然もより以上立派な充實した保育を致しますにつきましては、私共も大いに研究致さねばならないと存じます。

◎お客様遊びのセット

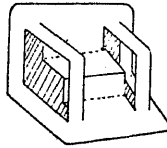
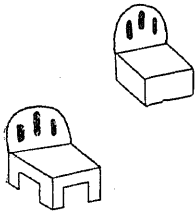
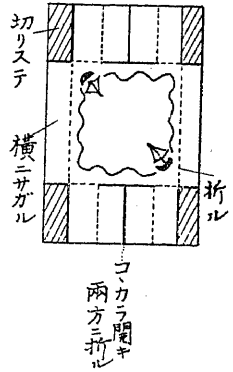
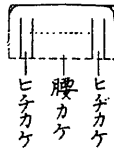
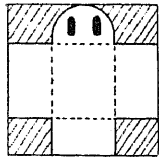


テーブル(端書一枚、なるべく厚い物)
A丸テーブル

クレオンを比較的濃く塗らせたり、又は適當に模様を書かせます。

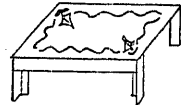
手技材料の中での大きな役割を持つて居ります畫用紙、これの代用として古端書を用ひて見ましたので其の中の一、二をこゝに記してみました。ごこの家庭にも澤山たまり、却つて始末に困る品ですから、幼児に二三枚づゝ持つて來て貰ひます事も出来ますし、相當豊富に使ふ事が出来ます。

○なるべく簡單で、幼児一人で先生の手を借りずに出来る物。
さいふ事を第一の條件として作つた簡単な物で御座います。



A ひぢ掛椅子

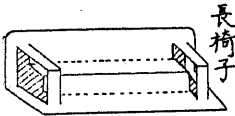
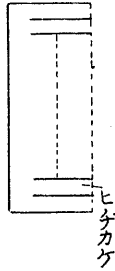
椅子(端書半分始にクレオンで色を塗る)
端書を半分に切り、更にそれを半分に折つて圖の様に缺を入れ、開きます。一番外側の兩端二本は、下の支へになりますから其のまま。中の二本はヒヂカケになりますから切目一ばいに折りをつけて、中側の方に折り、腰掛の部分は點線の折目の所で曲げて圖の様にします。



足ハニ重ニシテ
ノリヲツケテモ
ヨロシイ

B 角テーブル

これも丸のと同様に唯折り曲げるだけでもよろしいが、少し足の所を變へて左の様にしてみました。

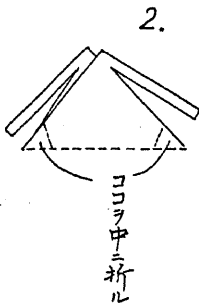
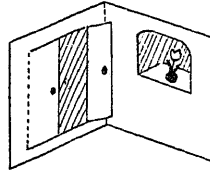
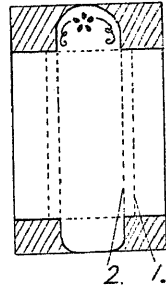
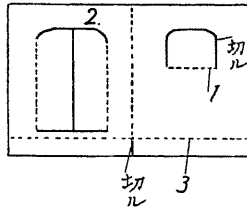
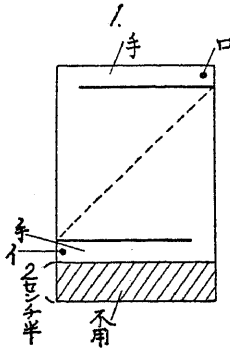


B 腰掛け(端書2(3)位)

足の所に切込みを入れてもよろしい。背の部分は二つに折つて飾り穴を開けます。

C 長椅子(端書一枚)

Aのひぢ掛椅子と同様の要領で作ります。

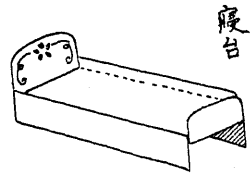


◎ 手提げ (端書一枚)

端書一枚の端を二握半程切り落し、両端に手になる部分を互ひ違に缺を入れ後を三角に折ります。
そして2の様になりましたら両端の角を少しづつ中に折り

入口 (端書一枚)

- 1、は窓になるので切目を入れたら外に折つて花の臺にし
- 2、はドアになるので両方へ開いて折ります。
- 3、の線は真中の切目を界にして左右の後に折り、支へにします。

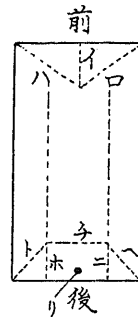


寝臺 (端書一枚)

- 1、の點線を外に折り、2、の點線を中側に折つて、寝臺の線にします。
- これでセットが大體出来上りましたので端書の白い部分を用ひて人を切り、色紙でクッションや御布團を作つたりして遊びます。尙其の時に、お人形のお家の片隅に、左の様な入口をつけましたら、「コンニチワ」と言ひながらドアを開けて這入つたりして、一層遊びに興味が出た様です。

込み、糸又はセロハンの紐(買物を結んで来る)で留めます。

手はねじる様にしてイ、ミロ、を糊でつけるか、又は同様に紐でこめます。手をつけ合せる前に、クレオンで適當に模様をつける可可愛くなりなます。



◎お舟(端書2/3位)

一枚の端書の縦を二種位切り落し、全體に濃く、白い所の残らない様に、クレオンを塗ります。

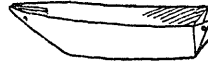
それから圖の様に折り、糸で留めて水に浮せまます。クレオンの爲に水が浸み込みます。スー〜と氣持よく流れて、幼児を喜ばせまます。

イ、は中側に折る。

ロ、ハ、は外側に折り、兩角を合せて糸で留めます。

ニ、ホ、は中側に。

へ、ト、チ、は外側に折り、へ、ミト、の角をり、の外側に合せて糸で留めます。



◎卵モザイクの壁掛け

卵の殻を手技に應用致します事は、いつか此の紙上で一寸申上げましたが、それを唯紙に貼るのではなく壁掛に致しました所、大變立派に出来まました。幼児も大變喜びますから、一度お試し下さい。

材料 卵の殻少々、繪の具(安い物で結構)、ボールの空箱の蓋。

先づ初めに、卵の殻を赤や黄、緑、茶等、色々の色に幼児と一緒染めます。直ぐに乾きます。

其の間にボールの空箱の蓋の中側へ墨を塗ります(墨でなく繪の具でもよろしいが墨が一番引立ちます)。墨が乾きましたら糊でそこへ好きな物を書きます。つまり指で糊をなすりながら、何かの形を作ります。(六〇頁へ)

そして、鳩さんたちは、

「はい、こんきは、しつかり持つていらつしやいよ。」

「お手手を、はなしてはだめですよ。」

さう言つて、風船を一つづつ、小兎さんの手に持たせてくれました。

お母さん兎は、

「鳩さん、さうも、ほんまにありがたう。」と、お禮を言ひました。

するさ、小兎さんたちは、一つづつのお手々に風船を持つて、にこにこしながら、

「鳩さん、さうも、ありがたう。」

「さう言つて、お禮を言ひました。」

まあまあ、ほんまに仲よし子兎さん。そして、ほんまに

お利口な子兎さんです。

では、仲よし子兎さんのお話は、これでおしまひです。

× × ×

(六七頁より)

そして糊の乾かない中に、卵の殻の適當な色のついたのを其の上のせ、指でつぶして付けます。卵の殻がかけるので餘分なのが出來ますから、それは箱をはたいてはらひ落します。糊の付いた所にだけ、卵の殻で繪が出來ます。箱の上に紐をつけて下げます。卵の殻の艶ミ、モザイク式の面白さがあつて、中々興味ある物になります。

(八六頁より)

この人形の整列する有様を見せたかつたので無理にこの場面をつけ加へた形なのです。無くともいゝと思ひます。

第五場

戦場の場面を音で現はして見ました。悽絶な場面を見せることなく、見てゐていゝものださうでした。

第六場

こゝはしんみりした場面です。子供の様子によつては、しんみりを見て貰へない場合もあります。情味豊かな懐古話をよく聞いて貰ひ度いと思ひます。それには、この場面が冗漫に過ぎぬやうに注意することが大事です。